

安全データシート

1. 製品及び会社情報

製品名称 : ダイハツ オイルラインクリーナー
 製品コード : C16-343
 推奨用途 : 4 サイクルエンジン内部洗浄油
 会社名 : 日本オイルサービス株式会社
 住所 : 東京都昭島市福島町3-2-20
 電話番号 : 042-542-8861
 FAX 番号 : 042-542-8374
 緊急連絡先 : 042-542-8861

2. 危険有害性の要約

GHS分類
 物理化学的危険性 : 分類基準に該当しない
 健康に対する有害性
 発がん性 : 区分 2
 特定標的臓器毒性(単回暴露) : 区分 3 (麻酔作用)
 環境に対する有害性 : 分類基準に該当しない
 GHS ラベル要素
 シンボル :



注意喚起語 : 警告
 危険有害性情報 : H336
 H351

眠気又はめまいのおそれ
 発がんのおそれの疑い

注意書き

【安全対策】

使用前に取扱説明書を入力すること。
 すべての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。
 粉塵/ヒューム/ガス/蒸気/スプレーの吸入を避けること。
 屋外または換気の良い場所でのみ使用すること。
 指定された個人用保護具を使用すること。

【応急措置】

吸入した場合：空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
 暴露または暴露の危険性がある場合：医師の診断/手当てを受けること。
 気分が悪い時は、医師に連絡すること。

【保管】

換気の良い場所で保管すること。容器を密閉しておくこと。
 旋錠して保管すること。

【廃棄】

内容物及び容器を国際/国/都道府県及び市町村の規則に従って廃棄すること。
 具体的には、都道府県知事等の許可を受けた専門の廃棄処理業者に業務委託すること。

3. 組成及び成分情報

単一製品、混合物の区分 : 混合物
 化学名 : 潤滑油基油 及び 添加剤 の混合物
 成分及び含有量 :

成分	Cas No.	含有量 (mass %)
石油系炭化水素	非開示	62-72
添加剤	(混合物)	13-23
アルキルナフタレン	非開示	2-8
特殊溶剤	64742-94-5	2-8
メチルエチルケトン	78-93-3	2-8

化学特性 (化学式) : 特定できない

危険有害成分

毒物及び劇物取締法 : 該当しない

化管法 (P R T R 法) : 該当しない

労働安全衛生法 :

物質名	政令番号	含有量 (mass %)
鉱油	名称等を表示し、又は通知すべき 危険物及び有害物 (別表第9の168)	75-85
ナフタレン	名称等を表示し、又は通知すべき 危険物及び有害物 (別表第9の408)	0.3-0.6
コールタールナフサ	名称等を表示し、又は通知すべき 危険物及び有害物 (別表第9の175)	5.4-6.0
メチルエチルケトン	名称等を表示し、又は通知すべき 危険物及び有害物 (別表第9の570)	2.0-8.0

4. 応急処置

- 吸入した場合 1 新鮮な空気のある場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させる。
 2 体を毛布等でおおい、保温して安静を保ち、気分が悪い時は直ちに医師の診断を受ける。
- 皮膚に付着した場合 1 直ちに汚染された衣服を脱ぎ、皮膚を大量の水と石鹸水で洗う。
 2 汚染された衣服を再使用する場合には洗濯する。
- 目に入った場合 1 清浄な水で数分間注意深く洗う。
 2 コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外す。
 3 その後も洗浄を続け、最低15分間洗浄した後、医師の診断を受ける。
- 飲み込んだ場合 1 無理に吐かせないで、医師の手当てを受ける。
 2 口の中が汚染されている場合は、水で十分洗う。

安全データシート

5. 火災時の措置

消火剤	:	霧状の強化液、粉末、炭酸ガス、泡、乾燥砂が有効である。
使ってはならない消火剤	:	棒状水の使用は、火災の拡大を引き起こすことがある。
特有の危険有害性	:	火災によっては、刺激性のガスが発生することがある。
特定の消火方法	1	火元への燃焼源を絶つ。
	2	周囲の設備等に散水して冷却する。
	3	火災発生場所の周辺に関係者以外の立入りを禁止する。
消火を行う者の保護	1	消火作業の際は、風上から保護具を着用して行う。皮膚への接触が想定される場合は、不浸透性の保護具及び手袋を着用する。
	2	必要時は適切な空気呼吸器と防護服を着用する。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項	:	作業の際には、保護具を着用する。
環境に対する注意事項	1	土、砂、砂袋その他適切な方法で漏洩の広がりを防ぎ、側溝、下水道、河川へ流出しないよう注意する。
	2	海上では、漏洩の拡大を防ぐため、オイルフェンスを張り、吸収マット又は適切な資材に吸収させる。
封じ込め及び浄化の方法及び資材	1	危険領域から人を退避させる。
	2	危険領域にロープを張り、人の立ち入りを禁止する。
	3	少量流出の場合、漏洩物を土、砂、砂袋、ウエスその他適切な物に吸収させ回収する。
	4	大量流出の場合、盛上で囲み漏洩の広がりを防ぎ、可能な限り空容器に回収する。
二次災害の防止策	1	漏洩時は事故の未然防止及び拡大防止を図る目的で、速やかに関係機関に通報する。
	2	付近の着火源となるものを速やかに除くとともに消火剤を準備する。
	3	漏洩物を完全に除去し、漏洩場所と周辺の換気及び浄化を行う。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い		
技術的対策	1	指定数量以上の量を取扱う場合には、法で定められた基準に満足する製造所、貯蔵所、取扱所で行う。
	2	火花、炎、高温体等との接触を避けるとともに、みだりに蒸気を発散させない。
	3	保護具を着用する。
	4	容器から取り出す時はポンプなどを使用する、細管を用いて口で吸い上げない。飲み込まない。
	5	ミストが発生する時は、呼吸器具を使用してミストを吸入しない。
換気・排気対策	1	屋内での取扱い時は適切な換気下で行う。
	2	蒸気、ミストが拡散する場合は密閉系で、局所排気システムその他適切な装置を設置する。
注意事項	1	皮膚との接触を避ける。
	2	目との接触を避ける。
	3	取扱い後は手と顔をよく洗う。
	4	容器開封時は手の怪我を防ぐため手袋を着用する。
保管		
保管条件	1	直射日光を避け、涼しく換気され、乾燥した場所に保管する。
	2	着火源の可能性のあるもの、高温物体を避ける。
	3	使用後は容器を密栓し、ゴミ、水分の混入を防ぐ。
注意事項	1	ハロゲン類、強酸類、アルカリ類、酸化性物質との接触並びに同一場所での保管を避ける。
	2	空容器は可燃性の製品残留物を含んでいる可能性がある。洗浄前に溶接、ハンダ付け、穴あけ、切断等してはならない。

8. 暴露防止及び保護措置

設備対策	1	発生源の密閉化、又は排気装置を設ける。
	2	取扱い場所の近くに、目の洗浄及び身体洗浄のための設備を設置する。
管理濃度	:	ナフタレン 10ppm
許容濃度	1	鉱油ミスト 日本産業衛生学会(2010年度版) : 時間加重平均 3mg/m3 ACGIH (2010年度版) : 時間加重平均 5mg/m3
	2	ナフタレン 蒸気 STEL 15ppm 蒸気 TWA 10ppm
	3	1,2,4-トリメチルベンゼン (製品中の含有量: <0.3mass%) 蒸気 TWA 25ppm
	4	メチルエチルケトン 蒸気 STEL 300ppm 蒸気 TWA 200ppm
保護器材		
呼吸器用保護具	:	設備的対応によっても空気中の濃度が、作業員の健康を保護するのに適切なレベルに保たれていない場合、国家検定合格の呼吸保護具を使用することが適当と思われる。該当する場合は、呼吸保護具の選定、使用および保守は法令に従わなければならない。本物質用に考えられる呼吸保護具のタイプは以下の通りである: 有機ガス用防毒マスク。
手の保護具	:	ここで提供している具体的な保護手袋に関する情報は、公表された文献及び、保護手袋の製造業者のデータに基づいている。保護手袋の適合性及び、浸透時間は、具体的な使用条件により相違する。保護手袋の選定における明確なアドバイス及び、使用条件での浸透時間については、保護手袋の製造業者に問い合わせること。また、使用前に保護手袋を検査して、すり切れたり、損傷ある手袋は、交換すること。本製品を使用する際に、推奨できる保護手袋の種類は、次の通りである: バイトン製耐化学薬品性手袋を使用することが推奨される。
眼の保護具	:	接触が生じそうな場合、側面シールド付き保護メガネが推奨される。
皮膚及び身体の保護具	:	提供された個々の保護衣に関する情報は、公表された文献および製造業者のデータに基づいている。本物質用に考えられる保護衣のタイプは以下の通りである: 耐化学薬品/耐油作業衣が推奨される。
衛生対策	:	大気、水、土壌への汚染を抑制するため、適用される環境に関する法規制に従うこと。また、環境への放出を防止又は抑制するため、適用される適切な管理方法を執り、環境を保全すること。

安全データシート

9. 物理的及び化学的性質

外観			
物理的状態	:	液体	
形状	:	粘性流体	
色	:	褐色透明	
臭気	:	僅かな臭気	
密度 (15°C)	:	0.88	g/cm ³ JIS K 2249
引火点	:	110	°C JIS K 2265-4 (COC)
動粘度 (40°C)	:	34	mm ² /s JIS K 2283
(100°C)	:	8	mm ² /s JIS K 2283
流動点	:	-10.0以下	°C JIS K 2269
燃焼の又は爆発範囲 (推定値)	:	爆発限界 (1-7%)	
溶解性	:	水に不溶	

10. 安定性及び反応性

化学的安定性	:	常温で暗所に貯蔵・保管された場合、安定である。
危険有害反応可能性	:	強酸化剤との接触を避ける。
避けるべき条件	:	1 混触危険物質との接触。 2 長時間の加熱、裸火、着火源。
混触危険物質	:	ハロゲン類、強酸類、アルカリ類、酸化性物質と接触しないよう注意する。
危険有害な分解生成物	:	燃焼時、一酸化炭素等が生成される可能性がある。

11. 有害性情報

(得られた情報は個々の成分の安全データシートのデータに基づく)

製品	
混合物のために、危険有害性区分は、混合物の分類基準に基づき分類した。	
成分 (石油系炭化水素)	
急性毒性 (経口)	: ラットLD50 5000mg/kg以上
急性毒性 (経皮)	: ラットLD50 5000mg/kg以上
急性毒性 (吸入)	: ラット吸入(ミスト) LC50(4h) 5mg/L以上
眼に対する重篤な損傷性又は刺激性	: ウサギによる複数の眼刺激試験において、眼刺激性に区分する結果は得られていない。
呼吸器感受性	: 分類されない。
皮膚感受性	: モルモットを用いた複数の試験 (ビューラーテスト) において、いずれも感受性なしとの結果が得られている。
生殖細胞変異原性	: AMES試験においてMutagenicity Index (MI) 値が0.0との報告がある。 広範囲な変異原性試験 (in vivo及び in vitro) が実施されているが、大部分の結果から変異原性を示す結果は得られておらず、生殖細胞変異原性なしと判断する。
発がん性	: IARCでは、高度精製油はグループ3(人に対する発がん性について分類できない) に分類され、ACGIHの提案もほぼ同様の分類と言える。EUによる評価では、発がん性物質としての分類は適用される必要はない。 各種動物への皮膚暴露試験から得られた知見により発がん性はなしと判断されている。
生殖毒性	: ラットにおける複数の発育毒性および生殖毒性試験において、発育毒性および生殖毒性を示す結果は得られなかった。
特定標的臓器毒性 (単回暴露)	: 急性試験による各種特定臓器への単回暴露毒性は認められていない。
特定標的臓器毒性 (反復暴露)	: 経皮及び吸入投与による4週間から2年間の反復毒性試験を行ったが、全身に対する影響は確認されなかった。
吸引性呼吸器有害性	: 40°Cの動粘度が20.5mm ² /s以下の炭化水素に該当しないため分類されない。
成分 (添加剤)	
添加剤パッケージ (製品中の含有量 : 7-12 mass %)	
急性毒性 (経口)	: 摂取により、胃腸の炎症および下痢を起こすことがある。 (添加剤パッケージに含まれる成分の情報) 鉱油 (製品中の含有量 : 2.8-5.6 mass %) LD50 経口ラット>5000 mg/kg 亜鉛ジアルキルジチオホスフェート (製品中の含有量 : 0.5-1.0 mass %) LD50 経口ラット3100 mg/kg Alkaryl amine (製品中の含有量 : 0.5-1.0 mass %) LD50 経口ラット>5000 mg/kg Calcium long-chain alkaryl sulfonate LD50 経口ラット>5000 mg/kg Polyolefin LD50 経口ラット>10000 mg/kg Long-chain alkyl ester LD50 経口ラット>2500 mg/kg
急性毒性 (経皮)	: 混合物に繰り返してまたは長期にわたり接触すると皮膚の脱脂を引き起こし、その結果として非アレルギー性接触皮膚炎と経皮的な吸収を招くおそれがある。 (添加剤パッケージに含まれる成分の情報) 鉱油 (製品中の含有量 : 2.8-5.6 mass %) LD50 皮膚ウサギ>5000 mg/kg 亜鉛ジアルキルジチオホスフェート (製品中の含有量 : 0.5-1.0 mass %) LD50 皮膚ラット>2000 mg/kg Calcium long-chain alkaryl sulfonate LD50 皮膚ウサギ>2000 mg/kg Polyolefin LD50 皮膚ウサギ>2000 mg/kg Long-chain alkyl ester LD50 皮膚ウサギ>2500 mg/kg

安全データシート

急性毒性 (吸入)	:	加熱によって生じる蒸気、気化物質を吸い込むと呼吸器に刺激を与える可能性がある。 (添加剤パッケージに含まれる成分の情報) 鉱油 (製品中の含有量 ; 0.4-0.8 mass %) LC50 吸入した場合 蒸気 ラット >2.18 mg/l 4 時間 Calcium long-chain alkaryl sulfonate
成分 (アルキルナフタレン)		
急性毒性 (経口)	:	LD50 >5000mg/kg 毒性は極めて低い。
急性毒性 (経皮)	:	LD50 >2000mg/kg 毒性は極めて低い。
急性毒性 (吸入)	:	情報は得られていない。
皮膚腐食性及び刺激性	:	情報は得られていない。 常温/通常扱う温度では、皮膚刺激性は極めて低い。
眼に対する重篤な損傷性又は刺激性	:	眼に短時間軽度な不快感を及ぼす恐れがある。
呼吸器感作性	:	情報は得られていない。
皮膚感作性	:	情報は得られていない。
慢性毒性、長期毒性	:	同一または類似の物質による実験室での研究によれば、通常の使用条件下では、健康への重大な影響は引き起こさないものと予測される
発がん性	:	NTP/IARC/OSHA の発がん性物質に記載されていない。
変異原性	:	情報は得られていない。
催奇毒性	:	情報は得られていない。
生殖毒性	:	情報は得られていない。
その他の情報	:	情報は得られていない。 LC50 吸入した場合 蒸気 ラット >1.9 mg/l 4 時間 Polyolefin LC50 吸入した場合 蒸気 ラット >19171 mg/m ³ 4 時間 データなし。
その他の情報	:	
成分 (特殊溶剤)		
急性毒性 (経口)	:	低毒性 : LD50 >5000 mg/kg , ラット
急性毒性 (経皮)	:	低毒性
急性毒性 (吸入)	:	吸入時、低毒性がある。 高濃度によって、頭痛、めまい、悪感などの中枢神経系抑制を引き起こすことがある。
皮膚腐食性及び刺激性	:	皮膚に対する刺激性はない。 長時間/反復接触は、皮膚炎を引き起す皮膚の脱脂の原因になる可能性がある。
眼に対する重篤な損傷性又は刺激性	:	目に対する刺激性はない。
呼吸器感作性/皮膚感作性	:	皮膚感作物質ではない。
生殖細胞変異原性	:	変異原性はない。
発がん性	:	発癌作用の限定的証拠がある。(Naphthalene) Naphthalene (特殊溶剤に含まれる成分) ACGIH Group A4: ヒトに対する発癌物質として分類されていない。 NTP: 人体に対する発癌性が十分に予想される物質。 IARC 2B: 発癌物質の可能性がある。 GHS / CLP: 発がん性区分2 1,3,5-トリメチルベンゼン (特殊溶剤に含まれる成分) <0.3 mass% GHS / CLP: 発癌性の分類なし 1,3,5-トリメチルベンゼン (特殊溶剤に含まれる成分) <0.3 mass% GHS / CLP: 発癌性の分類なし 1,3,5-トリメチルベンゼン (特殊溶剤に含まれる成分) <0.3 mass% GHS / CLP: 発癌性の分類なし
生殖毒性	:	出生率の低下はないと思われる。 動物において母体毒性がある投与量で、胎児毒性が生じる。
成分 (メチルエチルケトン)		
急性毒性 (経口)	:	ラット LD50 2 4 8 3 mg/kg 区分5 飲み込むと有害のおそれ
急性毒性 (経皮)	:	ウサギ LD50 >5 0 0 0 mg/kg
急性毒性 (吸入)	:	ラット LC50 1 1 7 0 0 ppm/4h ラット吸入 LC50 (4 時間) 値=11,700ppm (EHC 143 (1992), PATTY (4th, 1994), IRIS (2003), ATSDR (1992)) に基づき、区分5とした。吸入すると有害のおそれ (区分5) 区分5 吸入すると有害のおそれ。
皮膚腐食性及び刺激性	:	ヒトの皮膚に曝露しても刺激性はみられなかったとの記述 (EHC 143 (1992), DFGOTvol.12 (1999), PATTY (4th, 1994) および ATSDR (1992)) があるが、ウサギでの皮膚適用試験で軽度または中等度の刺激性がみられたとの記述 (EHC 143 (1992), DFGOTvol.12 (1999), PATTY (4th, 1994) および ATSDR (1992)) から、区分2 とした。 区分2 皮膚刺激。
眼に対する重篤な損傷性又は刺激性	:	ヒトの蒸気曝露例で眼に刺激性がみられたとの記述 (ACGIH (7th, 2001), DFGOTvol.12 (1999), PATTY (4th, 1994) および IRIS (2003))、およびウサギを用いた眼刺激性試験で2.4時間後の評点の平均値は角膜混濁2.5、結膜発赤2であったが、7日以内にほぼ回復していた (ECETOC TR48 (1992)) ことから、区分2B とした。 区分2 B 眼刺激。
呼吸器感作性	:	情報なし。
生殖細胞変異原性	:	ほ乳類赤血球を用いる小核試験で陰性の結果がある。 区分外
発がん性	:	EPA で I (inadequate) に分類されている。 区分外
生殖毒性	:	ラットでの吸入曝露による催奇形性試験では胎児に奇形が認められたとの記述があるが、再試験では化骨遅延・変異がみられたものの奇形は認められていないこと、さらにマウスでの吸入曝露

安全データシート

- による催奇形性試験でも仔動物の体重低値と変異がみられたものの奇形は認められていないことから、いずれも最小限な影響である。 区分外
- 特定標的臓器毒性(単回暴露) : ヒトでの吸入曝露による試験では中枢神経系への影響はみられなかったとの記述や、time estimation testの結果による試験では中枢神経系への影響はみられなかったとの記述がある。一方、ラット又はマウスの吸入曝露試験では比較的低濃度で中枢神経系に影響が認められていることから、標的臓器は中枢神経系と判断される。また、ラットでの中等度用量の経口投与で腎臓に影響がみられたとの記述から、腎臓も標的臓器と判断される。ヒト吸入曝露例に気道刺激性がみられたとの記述がある。
区分1 臓器(中枢神経系)の障害。
区分2 臓器(腎臓)の障害のおそれ。
区分3 気道刺激性。
- 特定標的臓器毒性(反復暴露) : ヒト職業曝露例に手および腕の感覚麻痺がみられたとの記述、職業曝露例での中枢神経障害を示唆する記述、ならびに中枢神経系に影響がみられた3 症例についての記述から、標的臓器は中枢神経系および末梢神経系と考えられる。
区分1 長期又は反復曝露による臓器(中枢神経系、末梢神経系)の障害。
- 吸引性呼吸器有害性 : 3以上13を超えない炭素原子で構成された一級のノルマルアルコール; 13を超えない炭素原子で構成されたイソブチルアルコールおよびケトンに相当することから、区分2とした。
区分2 飲み込み、気道に侵入すると有害のおそれ。

12. 環境影響情報

(得られた情報は個々の成分の安全データシートのデータに基づく)

- 製品
混合物のために、危険有害性区分は、混合物の分類基準に基づき分類した。
- 成分(石油系炭化水素)
- 生態毒性
- 急性毒性 : 水にはほとんど溶解しないため、水生生物への汚損を生じる。
魚類(ファットヘッドミノール 96時間) LL50 100mg/L以上
甲殻類(オオミジンコ 48時間) EL50/NOEL 10,000mg/L以上
藻類(セレンストルム) NOEL 100mg/L以上
難水溶性のため上記試験においては調整されたWAF(水適応性画分)を試料として使用している。
上記試験結果から水生環境急性有害性なしと判断する。
- 慢性毒性 : 水にはほとんど溶解しないため、水生生物への汚損を生じる。
魚類(ファットヘッドミノール 14日間) NOEL 100mg/L以上
甲殻類(オオミジンコ 21日間) NOEL 10mg/L以上
微生物の発光試験(4日間)による発光の抑制は確認されなかった。
難水溶性のため、上記試験においては調整されたWAF(水適応性画分)を試料として使用している。
(水適応性画分)を試料として使用している。
上記試験結果から水生環境慢性有害性なしと判断する。
- 残留性・分解性 : 生分解試験結果は31%(28日間)であることから、本質的生分解性を有するが、易生分解性ではないと判断する。
- 生体蓄積性 : 有用な情報なし。
- 土壤中の移動性 : 類似基油のlog KOCは3以上と推測され、地表で漏出した油は土壤に吸着されることにより地下水へ流出することは考えにくい。
- 他の有害影響 : 微生物の発光試験(4日間)による発光の抑制は確認されなかった。
- 成分(添加剤)
- 添加剤パッケージ(製品中の含有量; 7-12 mass %)
- 環境有害性 : 水生環境中で長期の悪影響を与えることがある。(計算に基づく)
- 環境に与える影響 : 環境中に残留する可能性のある成分を含有する。
- 成分(アルキルナフタレン)
- 生態毒性 : LL50 >10115ppm(ニジマス、96h)
EL50 >5029ppm WSF(ミジンコ、48h)
水生生物に有害であるとは予測されない。
- 移動性 : 情報は得られていない。
- 生分解性 : 本質的には生分解性と予測される。
- その他の情報 : 重大な影響や毒性は報告されていない。
- 成分(特殊溶剤)
- 生態毒性
- 急性毒性 : 魚類 : 毒性: $1 < LC/EC/IC50 \leq 10 \text{ mg/l}$
水生甲殻類 : 毒性: $1 < LC/EC/IC50 \leq 10 \text{ mg/l}$
藻類/水生植物 : 毒性: $1 < LC/EC/IC50 \leq 10 \text{ mg/l}$
微生物 : 毒性があると考えられる。 $1 < LC/EC/IC50 \leq 10 \text{ mg/l}$
- 残留性・分解性 : 容易に生分解できる。空気中の光化学反応により迅速に酸化する。
- 生体蓄積性 : 潜在的蓄積性を有する。
- 成分(メチルエチルケトン)
- 生態毒性
- 急性毒性 : ヒメダカ LC50 >100mg/L/96h
区分外
- 残留性・分解性 : 情報なし。
- 生体蓄積性 : 情報なし。

13. 廃棄上の注意

- 廃棄方法
- 1 内容物/容器を国際/国/都道府県/市町村の規則にしたがって廃棄すること。
 - 2 投棄禁止。
 - 3 事業者は産業廃棄物を自ら処理するか、又は都道府県知事の許可を受けた産業廃棄物処理業者、もしくは地方公共団体がその処理を行っている場合にはそこに委託して処理する。
 - 4 空容器を廃棄する場合、内容物を完全に除去した後に処分する。

安全データシート

14. 輸送上の注意

国際規制

国連分類 : 国連の分類基準に該当しない。

国内規制

下記、輸送に関する国内法規制に該当するので、各法の規則に従った容器、積載方法により輸送する。

陸上輸送

消防法 : 危険物 第4類 引火性液体 第3石油類 危険等級Ⅲ (非水溶性)
 容器 : 危険物の規制に関する規則別表第3の2に定めた適合品を使用する。
 (注) 容器は、危険物の規則に関する技術上の基準の細目を定める告示第68条の5に定める容器試験基準に適合していることを確認すること。

容器表示 : 一 危険物の品名 第3石油類 危険等級Ⅲ 潤滑油
 二 数量
 三 火気厳禁
 表示対象物 (労働安全衛生法)

海上輸送

船舶安全法 : 非危険物 (個別運送及びバラ積み運送に於いて)

航空輸送

航空法 : 非危険物

輸送の特定の安全対策及び条件 : 容器が著しく摩擦または動揺を起こさないように運搬する。

15. 適用法令

国内法規と規則

消防法 : 危険物 第4類 引火性液体 第3石油類 危険等級Ⅲ (非水溶性)
 労働安全衛生法 : 表示対象物, 通知対象物
 化管法 (PRTR法) : 非該当
 水質汚濁防止法 : 油分排出規制
 下水道法 : 鉱油類排出規制
 海洋汚染防止法 : 油分排出規制
 廃棄物の処理及び清掃に関する法律 : 産業廃棄物規制

16. その他の情報

(引用文献)

化学品の分類および表示に関する世界調和システム (GHS) 改訂5版 (2013年)
 GHSに基づく化学品の分類方法 (JIS Z 7252 -2014)
 GHSに基づく化学品の危険有害性情報の伝達方法—ラベル, 作業場内の表示及び安全データシート (JIS Z 7253 -2012)
 独立行政法人 製品評価技術基盤機構 GHS関連情報
 安全衛生情報センター「GHS対応モデルラベル・モデルSDS情報」
 その他文献調査によって得られた情報

安全データシートは、提供した製品の安全な取扱いを確保するための参考情報として提供されるものです。取扱者はこれを参考とし、自らの責任において個々の取り扱いの実態に合わせた処置を講ずることが必要であり、これを理解した上で活用してください。従って、本データシートそのものは、安全の保証書ではありません。